

病児保育奮闘記

(4)

子どもサポート H&K

大石 仁美

保育士さんの確保は難しい!?

病児保育は普通の保育園と違って、毎日決まった子が通園してくるわけではありませんので、その日の朝にならないと、いったい誰がやってくるのか、はたまたやってこないのか、全くわかりません。子どもがひとり来たとして、保育者は一人でいいかという、そんなこともありません。必ず複眼でみないと、見落としが出てくるからです。

0歳児と5歳児というように、年齢の離れた子どもが来た場合、一人一人に保育士がついて、さらに全体を見通せる人がひとり必要になりますので、スタッフは三人いないとできません。ここに感染症がひとり入ってくると、隔離しなければいけませんので、さらにもう一人スタッフが必要です。つまり、その日の子どもの数と状態によって大人の人数を変えないといけないのです。

このような特徴を持った病児保育室に勤務者を雇用するのはとてもむずかしいことです。多くの施設が赤字経営になるのは当然のことと言えるでしょう。

私たちのような補助金をもらっていない単独型施設で、しかも開設間もない認知度の低い施設に

おいては、人を雇用してお給金を支払うと、経営者は無収入ということも起こりうるのです。それでも人手が必要なのですから、甘んじて受け入れなければなりません。

ある時期、毎日来て貰っていたこともあります。利用者が来ない日はすることがなく、お掃除だけして一時間だけで帰ってもらったり、買い物にってもらったり、本の整理とか、領収書のスタンプ押しをしてもらったり、エプロンのアイロンかけをしてもらったり、手作りおもちゃを考えてもらったり、そういう日は、なにか仕事はないものか、探しめぐねていました。結局、働く側としては、かえって気兼ねをして、「なんもしていないのに、給金だけもらっているのは悪いので、必要なときに電話をください。」ということになりました。

ありがたいことに、電話をかけて一時間以内には来てくださるので、これはお互いにとってもいい方法でしたが、誰も仕事が入るかどうかわからないのに毎日自宅でじっと待機しているわけにはいきません。そのうち、電話をすると、「ごめんなさい。予定を入れちゃいました。」というようなことが続くようになりました。そこで思案の末、数

人の方におねがいし、Aさんは月曜日と木曜日、Bさんは火曜日、Cさんは水曜日と金曜日というように週に1~2回、フリーな日を作ってくれるよう、お願いすることにしました。午前9時前後に電話がなければ、その後はどうぞご自由にということで、心理的な負担を減らすことにしたのです。この方法は意外によかったようで、今も続いています。

保育士の資格を持っている方は、わりと沢山いらっしゃるのですが、現場は薄給のわりに厳しく、身体をこわす人も多いようです。それに拘束時間が長く、何かをしたい人にとっては物理的に無理な状況にあるようで、私どものところに来てくれる保育士さんは、現場を辞めた後、主婦をしながら、ボランティア活動に力を注いでいて、その合間に少し収入も得たいという人たちです。その意味では、うまくマッチングしているようです。

それから、小川の後輩で保育専門学校3年生が、授業が終わってから、ボランティアに来てくれることもありました。すでに保育士の資格はあるので、安心でしたし、実習では一人の子どもと対で接するという経験がないので、「子どもと向き合い、抱っこしていると癒される!!」と大喜びでした。それは子どもにも嬉しいことでした。何故か子どもは、年齢の若い方が好きなのです。バアバアの僻みかも知れませんが、お母さんに近いから？でも年配のお母さんもいらっしゃるしね・・・？きっと、少しでも自分の年齢に近い方がいいということなのでしょう。

その後、同じくこの学校からは、3年生の実習も受け入れるようになりました。卒業校というのはいいいもので、学校まるごと好意的で、教職員もなにかにつけて気にかけてくれているのがよくわかります。本当にありがたいことです。

このように保育体制に四苦八苦しなごらの毎日でしたが、4年目を迎えた年、突然女神が飛び込んでくるという驚きの事件がありました。これは

またのちほどにお話しいたします。

忘れられない お母さんの表情

2003年6月はじめ、開設から3か月を迎えようとしていたころ、一人のお母さんが見えられました。4歳になる双子のお母さんで、これまで大変だったことを、切々と語ってくれました。

「病気の時、二人いっしょに罹ってくれたらいいものを、一人が治ったらすぐ次の子がという具合で、職場を休んでばかり。どんなに肩身が狭かったことか。なんどやめようと思ったかしれません。学校現場なので、同僚だけでなく、子どもや保護者の方々にも申し訳なくて、いたたまれない思いでした。身近に助けてくれる人もなく、夫と二人で綱渡りのような日々。泣きたい毎日でした。こんな場所がもう少しはやくあったなら、どんなに救われていたことでしょう。子どもも病気の回数は減りましたが、あと2年ここに登録させてもらえらると思うとほっとします。本当に嬉しいです。」

このお母さんは、帰り際に玄関で深々と頭を下げました。そして顔を上げたその瞬間、まるでお顔から光が発するようにぼっと明るく輝いて、何とも言えない解放感に満ち満ちていました。このおかあさんの表情は私たちの脳裏に焼き付いて、忘れることがありません。この仕事を始めてよかった！心からそう思いました。しんどくてもここに仕事を続けて行く原点があるように思います。

このお母さんから一つ要望が出されました。保育園がお休みの時、一時保育をしてほしいということでした。この時点の登録会員さんは全部で20名。稼働率は一日定員4名として、5%という状況でしたし、他の人からも同じ要望が出ていましたので、やってみようということになりました。あのお母さんの表情を思い出すと、とても断る気にはなれませんでした。まずお盆休みからはじめてみよう。それにお盆は病児保育室は休業にしていたので、一時保育中に病児が来る心配はあ

りません。よし、やろう！そう決めるとお役にたてるという喜びで、気持ちが高まり、どんな企画で子どもたちを楽しませようか、そう考えるだけでワクワクしてきました。

一次保育大盛況

子ども達大はしゃぎ

計画の立案には強い味方がいました。私が在籍していた学校の卒業生です。彼女は保育士経験3年で体調を崩し、一時休職したものの、新しい職場を探していました。誠実で明るい笑顔の魅力的な人で、その分仕事をやりすぎる傾向があったのでしょう。おかげで私たちには恵まれすぎるほどの、頼もしい助っ人でした。

1～3日、元気な子を預かるわけですから、いかに上手くエネルギーを発散させるかがポイント。私の出した方針は、①天気の良い日は出来るだけ戸外で、自然に触れ、季節感を楽しむ。②美味しいものを食べる。③ああ、楽しかった！と満足して帰れる。この3点だけ。休園時一時保育は親たちにとっては、救いのサービスだったようで口コミで会員数がふえ、なかには、全く病気になるのに、この一時保育だけを楽しみに会員になっている子たちもいるくらいでした。

さて、どんな様子だったか少し紹介してみましよう。



御所の小川であそぶ子ども達



プールで水遊び



御所で自然観察クイズ大会



植物園の芝生広場で綱引き合戦

うわっ～。子どもたちの歓声が聞こえてくるようでしょ。一年のほんの数日、こうして元気な時の子ども達と遊ぶことで、私たちはどんなにエネルギーとそして生きがいを貰ったか知れません。

年に数回だけの一時保育。だからこそ、保育者も子どもたちにとっても、とびっきり楽しい特別な日になるように、スタッフ皆で知恵を絞り準備をしました。常設の病児保育は、春は暇、夏はお盆でお休みということもあって、力を注ぐことが出来たということもありますが、普段の子ども達を知ることで、その子の理解が深まり、意思の疎通がスムーズになり、病気の時の対応もやりやすくなったという利点もありました。

午前中の外遊びがおわると、食事をしてお昼寝。おやつを食べた後は室内遊び。この室内遊びには多くの知人の力を借りました。

歯科衛生士さんは人形劇をしながらの歯磨き指導してくれました。年齢にあった歯ブラシを配布し、ひとりひとりのお口の点検と磨き方をみてくれました。

また友人の一人は、子どもの等身大のお人形をつかっての腹話術。面白いお話に笑い転げる子ども達。そしてマジック。簡単な手品を覚えて、「おうちでパパにみせるんだ」と得意げに何度もやってみせる子もいて、いきいきと目を輝かせている子を見るのは本当に嬉しいものでした。

また自宅で子ども文庫を開いている友人は、大型絵本を持ち込んで、読み聞かせをしてくれました。さすがに子どもを引き込む術を心得ていて、上手い!! 私のほうが引き込まれて手が止まってしまいました。絵本って大人が読んでも奥が深いんだ。新鮮な驚きがいっぱい。この友人は折り紙や工作などにも知識が豊富で、子どもが“自分で作った”と満足できるようにサポートしてくれ、子ども達は、出来上がった作品を、宝物のように大事にお家にもって帰ってくれました。

私たちの周りにはなんて素敵な大人が多いんでし

よう!

私たちも頑張りました。保育士の小川は歌が得意。子どもは皆、歌が大好き。大きなお口を開けて子どもと一緒に歌合戦。あとは、まだ皆と遊べない赤ちゃんのお世話。そして雑用。

私は、必要な文具や食料の買い出し等。そして多いときは大人子どもあわせて総勢20人ほどの食事とおやつの準備。これがなかなか大変で、前日から仕込み、当日の朝5時から20人分の弁当を詰めていきます。年齢差があるので、ご飯の量はひとりひとり量ります。傷まない工夫も大切。しんどくてもこだわりがあるので、外注は出来ません。何時間も立ちどうしのせいで腰が痛くなって、あ~あと呻きながらも、結構そのしんどさを楽しんでいるところがあって、「わたし、この仕事で失業しても、飯炊き婆さんでやっていけるかも」なんて思ったりもするのです。

会員制にしていると、病児だけでなく、要望に応じてこんなことも出来るんですね。

自分の裁量で如何様にも出来る自由業は、私には案外あっているのかもしれませんが。